

# 2026年牛肉特集 今考えねばいけない牛肉の価値

ミート・コンパニオン 福島 孝義 常務執行役員



「継続的な価格改定と生産者確保に加え、販売先選定もより慎重に進める」と福島常務

前期の販売実績にイン系の取り扱いが大きく減少し、比較的価格の高まっていることから、牛肉販売実績は、数量抑えられるカタ系部位へシフト。一方、国産牛と輸入牛肉については、価格差縮小を背景に、バラ系部位には底堅い需要がみられました。

シア圏においても需要が高まっていることから、日本国内向けに希望数量・希望価格での調達が難しい状況が続きました。国産牛肉においても、消費者の節約志向の高まりを受けて販売環境は厳しさを増しましたが、スネやブリスケなど比較的安価な部位への引き合いは強く、年間を通じて品薄傾向が続きました。ロースなど高価格帯部位の販売は苦戦したものの、実績は前年比109%と前年を上回りました。

また、工場内では効率的な動線を意識したレイアウト変更を進めるとともに、5S推進委員会を発足し、安全衛生委員会と連携しながら、作業効率の向上、職場環境の改善、品質管理体制の強化に継続して取り組んでいます。

## 頭数確保が課題に

### 新たな商品開発も注力

今期の計画は、数量ベースで前年比105%を目標としています。

拡大を図ります。また、牛枝肉相場の高騰により売上高の増加が見込まれる一方、利益確保は一段と難しくなると想定。特に交雑牛については、頭数減少の影響にX以外の銘柄豚の提案も進めます。

また、牛枝肉相場の高騰により売上高の増加が見込まれる一方、利益確保は一段と難しくなると想定。特に交雑牛については、頭数減少の影響にX以外の銘柄豚の提案も進めます。

また、牛枝肉相場の高騰により売上高の増加が見込まれる一方、利益確保は一段と難しくなると想定。特に交雑牛については、頭数減少の影響にX以外の銘柄豚の提案も進めます。

また、牛枝肉相場の高騰により売上高の増加が見込まれる一方、利益確保は一段と難しくなると想定。特に交雑牛については、頭数減少の影響にX以外の銘柄豚の提案も進めます。

また、牛枝肉相場の高騰により売上高の増加が見込まれる一方、利益確保は一段と難しくなると想定。特に交雑牛については、頭数減少の影響にX以外の銘柄豚の提案も進めます。

また、牛枝肉相場の高騰により売上高の増加が見込まれる一方、利益確保は一段と難しくなると想定。特に交雑牛については、頭数減少の影響にX以外の銘柄豚の提案も進めます。

また、牛枝肉相場の高騰により売上高の増加が見込まれる一方、利益確保は一段と難しくなると想定。特に交雑牛については、頭数減少の影響にX以外の銘柄豚の提案も進めます。

す。米国産牛肉の生産頭数回復が遅れており、引き続き厳しい調達環境が望まれますが、冷蔵牛タンや自社工場の活用を見据えたモモ系部位の取扱強化により、販売数量が重要な課題です。今後も、継続的な価格改定と生産者の確保に取組むとともに、販売先選定についても慎重に進めます。また、牛枝肉相場の高騰により売上高の増加が見込まれる一方、利益確保は一段と難しくなると想定。特に交雑牛については、頭数減少の影響にX以外の銘柄豚の提案も進めます。

また、牛枝肉相場の高騰により売上高の増加が見込まれる一方、利益確保は一段と難しくなると想定。特に交雑牛については、頭数減少の影響にX以外の銘柄豚の提案も進めます。

また、牛枝肉相場の高騰により売上高の増加が見込まれる一方、利益確保は一段と難しくなると想定。特に交雑牛については、頭数減少の影響にX以外の銘柄豚の提案も進めます。

また、牛枝肉相場の高騰により売上高の増加が見込まれる一方、利益確保は一段と難しくなると想定。特に交雑牛については、頭数減少の影響にX以外の銘柄豚の提案も進めます。

